

文学の散歩道 入選作品 霜月（十一月）

短歌

色づきし木々にかこまれ石段を
登りて参詣義母の命日

近江富士 林 くみ子

目も見える話も出来る字も書ける
足もそこそこ日々の幸せ

小南 木楽蜻蛉

真夜中に刻々動く名月に
願い込めたる生への希望

守山市 小島 京子

俳句

足まかせ遠回りして萩の道

高木 都人

吹く風に語り掛けてる芒の穂

三上 櫻木 博子

「トントトン」と間引き菜刻む母の朝

近江富士 中村 城啓

川柳

夜勤明け社員食堂一人占め

近江富士 中村 城啓

眠れぬ夜指折るままのメモ用紙

小南 木楽蜻蛉

見せるだけ小菊手折って病室へ

高木 都人

冠句（栞抜く）

栞抜く 別れの予感花詞

竜王町 和美

栞抜く 余生の二幕へ踏む序章

小南 木楽蜻蛉

栞抜く ダイエット本あきらめて

高木 都人



次回 師走（十二月）の題目

冠句【ひと区切り】

お問合せ 文化スポーツ振興課

電話：〇七七（五一六）四五六八

次回投稿者交流会（投稿者全て参加可）十二月十八日（月）十時から市役所別館一階会議室